

NPOワンポイントアドバイス!!

これまでNPOのみなさんに、活動をしていくうえで必要なアドバイスをご紹介してきました。

今回は、趣向を変えて、NPOで働きたいと考えている方へのアドバイスです。

既にNPOで働いている方にも、参考にしていただければと思います。

1. 「やりたいこと」ではなく、「必要なこと」で実現したいことは何かを考える

NPOで働くことの面白さは、「私はこうなりたい・こうしたい」ではなく、「自分が社会をこう変えたい」という「必要なこと」を実現していくことがあります。

従って、社会や地域のどんな課題を解決したいのかを自分自身の中で明確化してみることが大切です。

2. 「巻き込む力」高めましょう

NPOは単体ではなく、地域の人々や行政・企業・学校等、様々な立場や価値観・文化を持った組織や個人と連携して活動していくことが多くなります。特に「人脈」を広げていくことは、活動の幅を大きくしてくれます。関りを持った方をどんどん巻き込んでいき、つくりあげた人脈を惜しみなく他人に使ってもらうような心を持ちましょう。

3. 「楽しむ力」を持つ

NPOは個々の職員の創造性や個性を重視している組織が多くあります。また、規模が小さいところが多いので一人に期待される役割は大きく、業務の幅も広く全方位の対応力が求められます。今まで経験したことのないことも多く起こると思います。

だからこそ遊び心を活かし、楽しみながら業務ができるような感性が必要になります。

そして何より、オフの時間つまり「生活者としての私」もしっかり持ってください。

4. 冷静・客観的に調べる

日本のNPOはまだまだ玉石混交です。組織の財政基盤はどうか、福利厚生や信用度・将来性はどうか等をしっかりと調べ判断してください。ボランティアの一人として関わることと、そこで仕事をして収入を得るのとでは意味合いが全く違います。そのNPOも、そこで働く自分自身もどれだけ成長できるかを、冷静に判断しましょう。

厳しいことも書きましたが、NPOはとてもやりがいがある仕事です。ひとりでも多くの「仲間」が増えていくことは、とても嬉しいことです。ぜひ、NPO職員への扉を叩いてみてください。

参考:『NPOマネジメント 71号 (IIHOE [人と組織と地球のための国際研究所] 発行)



センター長のつぶやき

まちづくりセンター センター長 丸藤 競

2016年の北海道で明るい話題と言えば、日本ハムファイターズの優勝をあげる人が多いと思います。11.5ゲーム差からの逆転優勝もそうですが、クライマックスシリーズも日本シリーズも、最高の試合を見せてくれました。私も日本シリーズの時は、出張先の北見で「俺のために優勝しろ」Tシャツを着て、テレビの前に釘付けになり応援していました。

日本一になった直後にNHK『北海道クローズアップ』で二週にわたり放送された栗山監督と荒木大輔さんとの対談は、

野球の裏話というよりは、組織論や人材育成に関して学ぶべきことが多い内容でした。栗山監督の人柄はもちろんですが、北海道のため選手のためという思い、「本気なんだ」ということが伝わってくるものでした。

栗山さんが栗山町に初めて来たのは、日本ハムが北海道にくる遙か前の1999年だそうです。以来、栗の樹ファームを作りし、集まってくれる子どもたちと気さくにキャッチボールをするなど、地域と親しみを深めてきました。大きなグローブを模ったソファーやたくさんの野球グッズが飾ってあるご自宅も無料開放していて、自由に入れるとのこと。

そういう栗山監督の生活ぶりを見てみると、ふれあいや夢を大切にする地域づくりという観点でも学ぶことが多いように思います。

北海道の誇り、栗山監督。来年もぜひ、楽しませてください!